

## 第4回「2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議」結果概要

1. 日 時 平成27年7月21日（火）午後1時～2時19分
2. 場 所 三井ガーデンホテル千葉3階 平安南
3. 出席者 別紙のとおり
4. 議事概要

### （1）開会

○司会 では、会議の開催に先立ちまして、委員の皆様にお知らせいたします。本会議につきましては、2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議設置要綱第6条により、原則として公開するものとしておりますので、御了承願います。

また、報道の皆様にお願ひがあります。会議のカメラ撮影は会長挨拶及び委員紹介までとさせていただきます。

それでは、ただいまから、第4回2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議を開会いたします。

私は、本日の司会を務めさせていただきます政策企画課の小高と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、次第によりまして会議を進めさせていただきます。

初めに、本会議の会長である森田知事から御挨拶申し上げます。

### （2）会長挨拶

○森田会長 どうも皆様、お暑うございます。今日はまた、御多忙の中、御参集賜りまして心から厚く御礼申し上げます。

着席にて失礼させていただきます。

第4回推進会議の開催に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

委員の皆様には、御多忙の中ご出席を賜り、まことにありがとうございます。御存じのとおり、幕張メッセで2020年東京オリンピック、フェンシング、レスリング、テコンドーの3競技が開催されることになりました。本日は、本県が大会開催地となることを踏まえて、新たな戦略の策定と既存の戦略の改定について御協議をいただきたいと思ひます。

去る6月30日にはI O C調整委員会が幕張メッセを視察し、委員の方からも「ビューティフ

ル」とお褒めの言葉をいただきました。幕張メッセでのオリンピックの開催は、世界に向けて千葉をPRする最高のチャンスでございます。世界中からも訪れる選手や観客の皆さんを明るく挨拶と最高の笑顔のおもてなしでお迎えしたいと思います。また、大会開催を契機とした本県のさらなる発展を確実なものとし、それらを、次代を担う子供たち、孫たちに引き継いでいくために、委員の皆様とともに、県の総力を集めた「チーム千葉」で取り組んでまいりたいと、そのように思っております。

委員の皆様におかれましては、2020年、さらにはその先を見据えて、専門的、総合的な立場から忌憚のない御意見を賜りますようよろしくお願いいたします。

I O C調整委員会の視察におきましては、森会長が本当に千葉県に頼むぞと、最大の配慮をしていただきました。私たちがそれに応えるように「チーム千葉」で頑張らなければならないと、そのように思ったところでございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

ありがとうございました。（拍手）

### （3）議事

○司会 続きまして、今回新たに委員に御就任いただいた方々を御紹介させていただきます。

飯島俊一委員でございます。

○飯島委員 千葉県バス協会会長の飯島でございます。よろしくお願いいたします。（拍手）

○司会 加納實委員でございます。本日は代理として青木様が出席されております。

○加納委員（代理） 順天堂大学です。よろしくお願いいたします。（拍手）

○司会 下河浩委員でございます。

○下河委員 日本旅行業協会千葉支部です。よろしくお願い致します。（拍手）

○司会 平栄三委員でございます。

○平委員 中小企業団体中央会の平でございます。よろしくお願いいたします。（拍手）

○司会 内藤敏也委員でございます。

○内藤委員 千葉県教育委員会教育長に就任いたしました内藤でございます。よろしくお願いいたします。（拍手）

○司会 藤森伸一委員でございます。

○藤森委員 J R東日本千葉支社長の藤森でございます。よろしくお願いいたします。（拍手）

○司会 吉開真一郎委員でございます。

○吉開委員 NHK千葉放送局の吉開です。よろしくどうぞお願いいたします。（拍手）

○司会 また、本日はオブザーバーとして、公益財団法人日本オリンピック委員会広報・企画部長の中森様に御出席いただいておりますので、御紹介させていただきます。

○中森部長 日本オリンピック委員会の中森でございます。どうぞよろしくお願いいたします。（拍手）

○司会 それでは、報道の皆様にはカメラ撮影はここまでとさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

これからの進行につきましては、石井議長にお願いいたします。

なお、知事は、この後所用がございますので、ここで退席させていただきます。

○森田会長 よろしく申し上げます。（拍手）

○司会 それでは議長、お願いいたします。

○石井議長 それでは、これより議事を進めます。

本日の会議では、6月のI O C理事会で幕張メッセがオリンピック3競技の会場として承認されましたことに伴い、本県が大会開催地となることを踏まえた取組について協議をいただきます。新たな戦略の策定及び既存戦略の改訂を検討していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、次第に従いまして、議題（1）2020年東京オリンピックにおける競技会場の見直しについて及び議題（2）「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略」に係る新たな戦略の策定及び既存の戦略の改訂について、一括して協議いたします。

事務局から説明をお願いします。

○内田東京オリンピック・パラリンピック推進担当課長 県庁政策企画課東京オリンピック・パラリンピック推進担当課長の内田と申します。私のほうより御説明をさせていただきます。

まず、競技会場の見直しにつきましてでございますが、資料1をご覧いただきたいと思っております。

今お話もありましたとおり、去る6月8日、スイスで開催されましたI O C理事会におきまして、幕張メッセを東京オリンピックのレスリング、フェンシング、テコンドーの競技会場とすることが了承されました。一方でございますが、この3競技の競技日程、あるいは幕張メッセのどのホールを使用するのか、また、パラリンピック競技でございます車椅子フェンシングやテコンドーを同じ幕張メッセを会場とするのかどうかというような、そういう詳細につきまして、現時点では組織委員会からまだ情報が入っておりません。こうした会場に関する情報に

つきまして、今後動きがあれば、皆様には可能な限り速やかに提供させていただきたいと思っております。お知らせをさせていただきたいと思っております。現状では、まだ3競技の会場が了承されたという、その御報告にとどめさせていただきたいと思っております。

続きまして、幕張メッセで開催される3競技の概要を簡単に御紹介をさせていただきたいと思っております。

お手元に配付してございます資料の最後に参考ということで資料をつけさせていただきました。こちら、ご覧いただきたいと思っております。

まず、この資料につきましてでございますが、参考資料「幕張メッセで開催される3競技の概要」、この資料は、日本オリンピック委員会、そして競技団体のホームページなどを参考に、県の教育庁体育課が作成したものでございます。この中から、本県の状況などを中心に簡単に御説明をいたします。

まず1ページ目でございますが、フェンシングは、使用する剣や有効面の違いなどで、フルーレ、エペ、サーブルの3種類に分かれてございます。

次に、2ページの下の方をご覧いただきたいと思っておりますが、こちらに、ロンドンオリンピックの男子フルーレ団体、団体競技で銀メダルを獲得したことは皆さん御存じと思いますが、そのメンバーの一人でございます三宅諒選手、こちらの選手は市川市出身でございます、オリンピック後に知事賞を受賞されている、そういう選手でございます。

次に、3ページ目をご覧いただきたいと思っております。

県内の有望選手につきましては、県立柏陵高校の溝口礼菜選手、こちらの選手でございますが、2014年の全国高校総体でエペの個人優勝というすばらしい成績をおさめてございます。

続きまして、4ページ目をご覧いただきたいと思っております。

レスリングでございます。レスリングは2種目ございまして、上半身のみの攻防で戦うグレコローマンスタイルと、全身のどこを攻め、どこを使って守ってもよいと言われるフリースタイルがございます。

県内のメダリストにつきましては、5ページ目、下のほうに東金出身の永田克彦選手がシドニーオリンピックで銀メダルを獲得してございます。

続きまして、6ページ目をご覧いただきたいと思っております。

県内の有望な選手といたしまして、県立京葉工業高校を卒業された宮原将裕選手でございますが、平成26年度国民体育大会において第1位を獲得したところでございます。

続きまして、7ページ目、テコンドーでございます。テコンドーにつきましては、1988年の

ソウル大会で公開競技となりまして、2000年のシドニー大会から正式競技となったところがございます。また、2020年の東京大会ではパラリンピック競技も実施されることが決定しているところがございます。

8 ページ目をご覧くださいと思います。

県内のメダリストでございますが、まだメダリストは誕生してございません。有望選手といたしまして、船橋市のテコンドー道場所属の東島星夜選手、この選手が全日本ジュニア大会で第1位を獲得しております。

3 競技、本当にざっとでございますが、概要については以上でございます。

次に、新たな戦略の策定及び既存の戦略の改訂につきまして御説明いたします。資料2をご覧くださいと思います。

今年3月でございますが、この推進会議におきまして、9つの戦略で構成されます2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略を策定いたしましたところがございます。既にお話しいたしましたように、先月本県で競技開催が決定いたしましたことから、改めましてオリンピック3競技の開催地となることを踏まえ、2020年、さらにはその先も見据えまして、会場県としてどのようなことに取り組んでいくのかを検討していく必要が生じたところがございます。

そこで、新たな戦略といたしまして、競技会場にふさわしい環境の整備、オリンピック・パラリンピックムーブメントの推進、大会開催効果の全県への波及を取組の柱といたします「戦略0 大会の成功・開催効果の全県への波及」を策定するとともに、既存の9戦略につきましても改訂していきたいと考えております。

当推進会議では、戦略策定・推進のための具体的な事業の検討、実施に当たりまして、会長が専門部会を設置できることとしており、昨年度、9つの専門部会を設置しております。戦略0の検討に当たりましては、議長、副議長の御了解をいただきまして、開催都市、開催会場でございます県、千葉市、幕張メッセを初め、幕張新都心立地企業や交通、輸送、宿泊、観光等の関係団体に参画いただき、新たに「専門部会0 大会の成功・開催効果の全県への波及」を7月7日に設置したところがございます。

新たに戦略に盛り込まれる取組は多岐にわたりまして、既存の9つの専門部会の検討項目も含まれますことから、今後、部会0を中心といたしまして、並行して各部会でも検討を行い、戦略0を取りまとめていきたいと考えております。

また、既存の旧戦略につきましても、本県での競技開催を取組に反映させるため、それぞれ

改訂を進めてまいります。

続いて、戦略0につきまして御説明をいたします。

次のページ、2ページ目に素案イメージということでお示しさせていただきました。こちらをご覧いただきたいと思います。

まず戦略の構成でございますが、既存の9つの戦略と同じように、2020年、その先を見据えました目標というものをまず示した上で、企業、団体、行政など、それぞれの主体が取り組む事項を記載することとしております。

戦略の0では、県内で大会が開催されることは、本県の国際的な魅力を高め、スポーツの振興や国際交流の推進、幕張メッセの競争力強化につながる絶好の機会を捉え、オリンピック・パラリンピック会場にふさわしい環境を整備するとともに、産学官民が一体となって大会に向けた機運醸成を図ること、さらに、大会の開催効果を県内全域で波及させることを目標としております。

続いて主な取組でございますが、1つ目は、同じく2ページ目の中ほどの丸印、オリンピック・パラリンピックの競技会場にふさわしい環境の整備でございます。ここでは、競技会場となる幕張メッセやその周辺施設の改修のほか、受入体制の整備と会場周辺地域の活性化、幕張の国際ブランドイメージの構築について記載してございます。

そのほか、次のページに移りまして3ページ目でございますが、危機管理・安全対策として、テロ等違法行為の未然防止や健康危機管理対策に取り組むこととしております。なお、素案のイメージでは、各取組の表題の下に括弧書きでそれぞれの項目の取組イメージを記載しておりますが、今後、県庁内のワーキンググループ、さらに専門部会、そしてこの推進会議での検討を重ねていただきまして、具体的な取組内容を文章化するとともに、各主体、取組の主体も明示していきたいと考えております。

続いて主な取組の2つ目は、オリンピック・パラリンピックムーブメントの推進でございます。ここでは、大会組織委員会が募集・運営する大会ボランティアへの参加の促進と、県が主体となり募集する主要空港や駅、観光地において観光や交通案内等を行う都市ボランティアの養成・確保を掲げております。また、大会機運の醸成として、県内で開催される3競技の普及や、オリンピック・パラリンピック教育の推進、組織委員会と連携したイベントの開催等について記載しております。

主な取組の3つ目は、大会開催効果の全県への波及でございます。ここでは、オリンピックに関連した各種プログラム等を通じまして、大会の開催効果を開催地の幕張新都心周辺だけで

なく県内全域へ波及させることとし、文化プログラムの実施や事前キャンプの誘致、あるいは観光コースの作成による県内周遊の仕組みづくり等に取り組んでいくことを記載しております。

資料についての説明は以上でございます。

続きまして、各専門部会における主な意見につきまして御説明をいたします。

資料3をご覧いただきたいと思います。

本日の推進会議開催に先立ちまして、10の専門部会を開催いたしまして、さまざまな御意見、御提案をいただきましたので、幾つか御紹介をさせていただきます。

まず、会場及び会場周辺の環境整備の関係では、オリンピック期間中の幕張のあるべき姿を検討していく必要性について御意見をいただいたほか、幕張新都心立地企業による一斉清掃等を通じたオリンピックへの貢献や、花と緑によるおもてなし等の御提案をいただきました。

続いて、バリアフリーに関しましては、実際に車椅子で幕張メッセへ行って見て感じたハード、ソフト面両面での対応につきまして御意見をいただいたほか、バリアフリーの質の向上が重要であり、使用する立場に立った検討の必要性が指摘されました。

裏面に移りまして、観光面では、千葉県には資源はあるものの、まだ知られておらず、訪日観光客をふやすためには、各国の嗜好を研究し発信していくことが必要との御意見をいただきました。

続いて、危機管理・安全対策に関しましては、感染症に対する初動体制の整備や訪日外国人への医療対応についての検討の必要性が指摘されました。

そのほか、文化プログラムの関係では、ターゲットを絞って検討していくことの必要性や、県民みんなが参加できるイベントの企画等につきまして御意見をいただいたところでございます。

駆け足になりましたが、事務局からの説明は以上でございます。

○石井議長 どうもありがとうございました。

大変多岐にわたる説明をいただいたわけですが、さて、これから皆さんの御意見をいただくようにいたします。

それでは、幕張に決まったということが一番最初ですから、メッセの社長からひとつお願いいたします。

○藤野委員 御指名いただきありがとうございます。幕張メッセの藤野でございます。

先ほど来、御説明がございましたように、オリンピック3競技の開催の場所として幕張メッセが今選定されておりますが、競技の日程等、詳細につきましては、私ども、何も承知をして

おりません。したがって、これから私どもが何をやらなければいけないのか、どういう準備体制をとるのかということは、そうした詳細の日程を踏まえ、また、それからパラリンピックでの御使用があるのかないか、そういう点も踏まえていろいろ検討していかなければならない状況でございます。

競技会場としてメッセの国際展示場が想定されていると承知をしておりますけれども、国際会議場等の施設につきましては、それぞれの競技団体から御要望を伺うことになると思います。そうした点も踏まえまして、展示場所有者でございます千葉県のほうでいろいろ検討を進めていただけるというふうに了解をしております。私どもは管理者として千葉県のほうとよく連携をとりながら、競技会場として遺漏のないような施設にしていくために尽力していきたいと思っております。

私どもの施設での競技について、事前の視察の段階で正式におっしゃったわけではないのですが、各競技、それぞれ1万人程度の座席を用意されるようなお考えというふうに漏れ聞いております。こういう競技会を行った場合には、展示会やコンベンションの場合と異なり、競技が終了した段階でどっと人が移動されるという特色がございます。幕張メッセへの動線としましては、海浜幕張駅を利用される方が一番多うございまして、そのほか、バスを御利用される方、それから車でおみえになって駐車場を利用される方がいらっしゃいますが、かなりの数の方は海浜幕張駅を利用されるのが実態です。海浜幕張駅と幕張メッセの間の動線というのが、階段もございまして、かなり上がったり下がったりしていますので、十分に必ずしも整備されているかどうかという点は要検討だろうと思っております。

また、昨年、私どものところでキワニス国際大会で多くの外国のお客様をお迎えしたんですけれども、その主催者のほうからは、Wi-Fi環境、無料の無線LANの構築というものをぜひ進めてくれと、それが会場として最大のお願いであるという要望をいただきました。私どもの施設内の共用部分につきましては無線LANの整備は終わっておるんですけれども、幕張の地域全体の無線LANという点につきましては、今後の課題になるんだろうと思っております。

今申し上げましたように、お越しいただく方についてのハード面、ソフト面での周辺環境の整備という課題がありますが、それぞれ御担当が県であったり市であったり、いろいろなところに分かれるんだと思います。こうした施設周辺の整備というのを、ここでは多くの方がお集まりいただいておりますものですから、こうした場で御検討いただくことが私どもの施設内の整備とあわせて重要になるんじゃないかというふうに思っております。

また同時に、幕張だけの問題にとどめないで、これを県内に広くというお話が問題提起として出ておりましたけれども、こうした点につきましても、いろいろな情報の発信、あるいはお客様への情報の提供等につきましても、各方面との連携体制をどういうふうに構築していったらいいか、そういった点について、また御相談させていただければというふうに考えています。

以上でございます。

○石井議長 ありがとうございます。

多分、藤野さんのところにはいろいろなところからいろいろな注文が来るとは思いますけれども、今後ともぜひよろしくをお願いします。

今、藤野社長の話の中で交通インフラの話が出ておりました。交通インフラというのは何といても成田空港が関係してくるんだらうと思いますので、夏目社長から発言をいただきたいと思えます。

○夏目委員 それでは、御指名いただきましたので一言お話をさせていただきたいと思えます。

まずは、千葉県内で大会が開催されるということが決まったことは大変素晴らしいことだと思えます。森田知事を始め関係の皆様のご努力に心から感謝を申し上げたいと思えます。じかにオリンピック競技を見られるということは、県民にとっても大変意義の深いことであり、非常に素晴らしいことだと思えます。

それで、交通インフラについてですが、私ども、成田空港でございますので、世界各地から来られるアスリートの方や、あるいは観客の方々の足をどうするかということになるのだらうと思えます。競技に参加する選手やスタッフの方々は専用バス等で恐らく競技会場に向かわれることになるのだらうと思えますが、観客の方々は、成田空港を利用される場合であれば、公共交通機関を利用して幕張方面に向かわれるものと考えております。そうすると、電車、バス、タクシーといった手段が考えられますが、時間や料金を考えますと、やはりバスを利用される方が非常に多くなるのではないかと私どもは推察するところであります。そうした意味で、バスの輸送力という点について、恐らくこれから専門部会で細かく議論が進むことと思えますが、バス事業者様にもいろいろとお願いすることになるのではないかと、こう思えます。

同時に、成田空港では、世界各地から来られるたくさんのお客様に対する利便性向上の一環として、交通に関する情報を含めたさまざまな情報をいろいろな形で提供していきたいと考えておまして、この度、交通事業者ごとに提供していた情報を一元化して表示が可能なデジタルサイネージ、「交通アクセス情報総合ナビゲーションデジタルサイネージ」を7月30日から設置することといたしております。それぞれのターミナルビルに1カ所ないし2カ所設置し、

お客様が電車で行く場合はどう、バスで行く場合はどうというように、それぞれのお客様のニーズに合わせて最適な交通手段を選択していただけるようにしてまいりたいと思います。

ただし、それだけでは恐らく競技期間中とその前後については不十分ではないかということで、さらにわかりやすい案内表示や案内ボランティア等が、幕張会場までのアクセスの御案内という意味で必要になるのではないかと。これらの点はまた専門部会で議論して準備していくということになるかと思いますが、いずれにいたしましても、県内に競技会場が決まったということで、千葉県として恥ずかしくない対応をしていかなければいけない。その一部を私ども成田空港も担うわけでございますので、できる限りの準備を進めていきたいと、こう思っております。

○石井議長 ありがとうございます。決意表明みたいなものでしたけれども、社長、LCCのターミナルができましたでしょう、新しく。今度、オリンピックのときはあちらの飛行機を使って来るという人は結構多いんですかね。

○夏目委員 LCCの国際線は、大体4,000キロメートル圏内というのが大体の範囲でありまして、香港だとか、あるいは台北だとか、あるいは韓国・ソウルだとか、そういうところが主なターゲットで、ヨーロッパとかアメリカ方面になると、ちょっとLCCには荷が重いかなということになるので、東南アジア、なおかつ日本から4,000キロメートルぐらいのところはLCCのお客様だと、そんな感じになります。日本国内は12都市と、既に多くのLCCが飛んでいますから、またあと5年も経てば、さらに成長しているのだらうと思います。そのような意味では、日本国内からはいろいろなところからLCCでお客様が来られるということは当然想定されます。

○石井議長 ありがとうございます。

それでは、そのほかに、関連でも結構ですから、何か御意見とか御質問がありましたら。

これからいろいろな意味で受入体制も注文がつくと思いますが、コンベンションビューローの高柳さんのほうからお願いします。

○高柳委員 御指名いただきましてありがとうございます。

受入に当たっての準備ということでございますが、これは当然、私どものほうとしては、もう既にあらゆる角度から検討を開始していると言ってもいいと思います。といいますのも、IOCのほうで6月8日に本県での3競技の開催が決定されたと、そのちょうど1週間後に、これも県の事業の一環ではございますが、千葉県スポーツコンシェルジュという事業をビューローで受託をいたしました。これはコンシェルジュですので、御案内の方も多いと思いますが、

まさにホテルのコンシェルジュと同じような役割と申しますか、あらゆるスポーツ等についての総合的な窓口を設けることができました。関係当局への改めてのお礼を申し上げますとともに、この2020年のオリンピック・パラリンピックの開催に向けたさまざまな準備のみならず、それに関連いたします、あるいは独自のさまざまなスポーツイベント等、こういうものの誘致であるとか支援、これについても積極的に進めてまいりたいというふうを考えております。したがって、お集まりの皆様方のそれぞれの立場におかれまして、さまざまな情報提供なり、さまざまな御支援を頂戴しなければいけないというふうに思っております。改めてぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

そういう動きの中で、この3種目についての決定ということですが、これについては、実は御案内のように、私ども、国際交流の推進であるとか、あるいはMICE事業の誘致、支援、推進ですね。こういったものを常日ごろの業務ということで行っておりまして、途中のさまざまな変遷がございますけれども、四半世紀にわたって、先ほど藤野社長、御意見をいただきましたけれども、ちょうどメッセと同じ四半世紀、誕生してから、そういった業務について進めているわけです。このたび、そういう意味からも、この2020年のオリンピック・パラリンピックをにらんでスポーツコンシェルジュ事業が県におかれて開始されたということと加えて、それをビューローに委託をしていただいたということ、それは非常に願ったりかなったりではないかなというふうに思ひます。

したがって、今度新たに加わった、この部会の0もそうですし、また、今回の議題にもなっております新たな戦略の策定、あるいは既存の戦略の改訂、こういったものにつきましても、あらゆる意味で私どもビューローがかかわる部分が多々ございます。そういう観点からも、今回の見直しも当然と言えば当然でございますし、このような方向で進められればなというふうに考えております。

話がまとまりませんが、改めて皆様方に御支援、御協力をお願い申し上げまして置かせていただきます。よろしくお願ひいたします。

○石井議長 ありがとうございます。

それでは、ちょっと違った視点から、東金市の志賀市長さん。市町村は、この幕張で開催されるということに対して、どのような取組をするというふうにお考えでございましょうか。

○志賀委員 御指名いただきました、千葉県市長会長を務めております志賀でございます。

まだ、はっきり申し上げてそこまでの論議というのは出ておりません。ただ、これから各自自治体も、既に手を挙げてキャンプ誘致も進めているところも幾つか出ておりますけれども、こ

れからますますキャンプ地としての選定が千葉県内の自治体にされるどころがふえてくるだろうというふうに思っています。ですから、幕張は、これはすばらしいことだというふうに思っています。ただ、それ以外にもやっぱり事前キャンプと、それから本番との関係の中での問題ということになると、どうしても交通アクセスの問題が大きなメインになってくるんじゃないかなというふうに思っています。

それから、やはりキャンプを張るにしても、1つの町で宿泊等を全て完結できるかということ、なかなかそうはいかないだろうということで、やっぱりこれらについても、その期間の交通の問題、これがやっぱり大きなテーマとしてこれから出てくるんじゃないかなというふうに思っているところでございます。

以上です。

**○石井議長** ありがとうございます。ほとんどの市町村がこれから関係してくると思いますけれども、ぜひよろしく願いいたします。

それでは、ちょっと視点を変えまして、競技者の目線から田村さん、バレーボールはありませんけれども、ちょっとお願いいたします。

**○田村委員** 御指名ですので一言言わせていただきます。

先ほどいろいろとお話を伺っていて、幕張メッセには無線LANを多く入れるとか、いろいろな、私、総合的に見ていて、選手村にもインフォメーションというのがありまして、競技団体、いろいろな競技があって、1回戦で終わってしまうチームもいるんですね。そういった中で、じゃ、帰るまで何をしようかという、結構選手村ってそういうものがあるみたいなんですよ。そういった意味で、ぜひ千葉県の各地域の特色ある、こんなものがあるよ、こんなものがあるよというインフォメーションを流せるようなシステムをぜひ出してほしいなと思うことと、各競技場にもそういうものが設置できるのであればしていただきたい。

あと、もう一つなんですが、子供たちに対する教育。これはとても本当に、私も前の東京オリンピックを見てバレーボールをやったわけですけども、今と大昔じゃ、もう全然教育の仕方が違うというか、スポーツ選手に対しても全然違う。食育とかって、もう皆さん存じ上げていると思いますけれども、食育と、プラスメンテナンス、体のメンテナンスというものをぜひ子供たち、自分自身で、有名選手になるというか一流選手になるには、自分の体をコントロールできなければならないと私たちは教わってきているんですね。多少のことだったら自分たちで治せる、自分で治せるという、それには、じゃ、どういうふうにしたらいいかという、そういうトレーナーとか、そういうものの指導というのをもっとやっていただけたら、私は選手寿

命も長引くし、やる選手、今本当に低学年から、本当に小さい子供たちから運動していますけれども、間違えると壊してしまって選手寿命がなくなってしまうということで、とても残念な選手たちを見ております。そういった面でもメンテナンスできる自分の健康な体、また見ていただくトレーナーの、確実な選手に合わせて指導できる人たちというものがもっとももっとふえたらいいなと思っています。

○石井議長 ありがとうございます。

今のお話の中で最初の話ですけれども、身につまされました。1回戦で負けちゃうということはよくあるんですね。僕も運動をやっていたからあるんですね。実は、九州の福岡で大会があったとき、1回戦で負けたんですよ。初日の10時ごろ終わっちゃいましてね。種目は何か言いませんけれども、そこで、さて、どうしようかと、これは本当に悩むんですね、競技をやりに行つて。そのときは、何もわからないのでハイヤーを借り切って——決勝まで行くお金ももらっていくんです、大体ね。だから、阿蘇山を越えて九州一周してきたことがあるんです。そのように、選手にとるとえらく大事なことなんですね。ですから、その辺はどうなんだろう。旅行会社がどのようなメニューをそろえてくれるかと、こういうことが大事だと思うので、旅行会社を代表してちょっと一言お願いします。具体的にこんなことを考えているというのがあれば。

○下河委員 まだ具体的にというのはございませんが、昨今ですと日本人向けのツアーの中に外国のお客様が参加をされるということが非常に多くて、日本人の方も喜ばれますし、海外からのお客様も喜んでいただけて触れ合うことができるというのがありますから、まずは千葉県内の観光商品づくりの中で特別、このときだけ、オリンピックのときだけつくる商品というのは、なかなかその後使っていただけるかどうかという機会も少ないですので、恒常的に商品づくりのほうを、まずは日本人向けにおもしろいものをつくる。それを海外のお客様と混同する形でそれを実施をしていくという流れをつくっていくことが一番取り組みやすいことなんだろうなというふうに思います。

○石井議長 ありがとうございます。

それでは、だんだん観光のほうに近づいてきましたね。先ほどの知事の話ですと、このオリンピックが終わった後でも、やっぱり観光立県みたいなことを考えているようなお話があったわけですけれども、観光サイドから見たときに果たしてどうなんだろう、どういうことが望ましいんだろうか。このオリンピックをうまくつかまえてということだと思いますが、その辺は、南のほうで大活躍している前田さんに一言、こういうことを考えたいというようなお話があれ

ばお願いいたします。

○前田委員 マザー牧場の社長をしております。御指名でございますので、オリンピックと観光の関連ということで、まさに今、ビジット・ジャパン、訪日観光客増が5年後のオリンピックという大きな目標で力強く今後も推進していくものと思われま。この中で訪日観光客、あと5年たつと、新興国の方が初めて日本に来る需要に加えて、既に日本に訪れている皆さん方がリピートをしてくる、何回も訪れてくる、こういう動きが強まってまいります。その中で千葉県というのは非常にチャンスがある。リピートしていくお客様の中では、今まで訪れたことのない場所、あるいは珍しい場所で自分だけが行ったことのある日本、ここを求めてくると思います。この辺では、県内の観光施設が特に訪日観光客に向けた底上げ、ホスピタリティー、語学力、受入についての底上げをしていく大きなチャンスだと思います。

その中で一つの提言としましては、僕は千葉県独自でいいと思うんですけども、海外の方を受け入れる基準づくり、例えば語学力が話せる方の基準、あるいは語学表示の基準、あるいは看板類の整理、アクセスの誘導、外国人を受け入れるための一つの観光地のグレードでも構いませんし、外国人観光客を受け入れるのに適した施設というような基準ができれば、各施設がそれをクリアするように努力をしていくと思います。何か目に見えた基準が望まれるのではないかな。

ちょうど今から5年後に、この東京オリンピックがあります。そして、今から1年後にリオデジャネイロのオリンピックがあります。ここでオリンピックの旗が日本、東京に渡されるときが大きく火がつくときだと思います。この意味で、これから1年間の準備期間が最も大事ではないかというように思います。先ほども議論がありましたように、競技が3つ県内に決まりました。今後はキャンプ地が幾つ決まるか、これも大きな課題だと思います。一つの数の目標、そして基準の制定、ここが観光力の真の底上げになるのではないかと思います。

それから、これは私独自の議論なんですけれども、やっぱりオリンピックが開かれる東京、そして千葉、神奈川、埼玉、この中で、やはり千葉の特色づけ、差別化、ここも大きく期待をしています。一例では、私はずっと花ということを言い続けているんですけども、この4つの自治体の中で千葉県を差別化できる一つの機軸は、僕は花だと思うんです。夏に咲く花もあります。オリンピック期間に咲く花もありますし、前後の期間にも花が咲く。この辺は、夏咲く花も私は詳しいですから、ぜひ個別にまた御質問いただければお答えをしていこうと思いますけれども、1つ、基準づくり、そして花ということを観光サイド、南のほうから提言をさせていただきます。

○石井議長 ありがとうございます。前田社長を御指名したのは、多分外国の方は、マザー牧場の花だとか、ああいうものにえらい魅力を感じるんじゃないかと思ったものですからね。やっぱりそこへ話が行きますよね。

○前田委員 大きくそこを果てまでお願いいたしたいと思います。

○石井議長 ありがとうございます。

それでは、これはせつかく幕張でやることになったわけですから、千葉県挙げて盛り上げなければいけないと、こういうことだと思えます。そこで、今度はマスコミの方に御意見を伺いますが、地元紙としてどんなことを考えているのか、千葉日報の萩原社長、一言お願いします。

○萩原委員 まだとてもそこまで考えてはいませんが、よく石井会長も御存じだと思いますが、海外のコンベンションなんかでは毎日のように、そのコンベンションで開かれる内容であるとか、あるいは前日開かれたことだとかをすぐ新聞に出して会場に置いて、フリーで自由に取ってもらうという、そういう情報の提供をしていますよね。

ですから、その競技だけでもいいと思うんですけども、とにかくこの3競技というのは日本もメダルがとれる有力な3競技ですから、そういう競技の情報にプラスして、幕張のエリア情報、あるいは県内全域の観光情報、そういうものを無料で提供できるような、そういう媒体、紙だけではなくて、それはW i - F i でデジタルで提供するのもあるでしょうし、あるいは電波媒体もあると思いますけれども、何かそういうものを期間中やっていけたらどうなのかなというふうに思っております。

それから、ちょっと媒体の情報とは違うんですけども、私が一番気にしているのは、当日お見えになった方が、駅から会場までそんなに長い距離ではないんですけども、先ほどもメッセの藤野社長が言われたように、何かあそこに行くまで、何となく疲れ感が出るんですね。先ほど言われたように、メッセへ行くには途中で横断歩道を渡らなければいけないので階段を上っていくわけですが、何か1つは、もっと大きな横断歩道ではなくて、駅から直結したスカイウォークというか、スカイデッキみたいなものがメッセまでできないのかなと。そういうものが、もっと広いものができれば、その上でもいろいろな情報提供なり、あるいは地元なりのもてなしのパフォーマンスができたり、そういうこともあるんじゃないかなというふうに思っております。

もう一つは、これは藤野社長は遠慮して言われなかったのかなと思いますが、今も大きなイベントがあると、海浜幕張の駅は入り口が1つなので大変混雑をします。ですから、出入り口をもう1カ所ふやして、円滑にやはり出入りできるようなことができないのかな。J Rとか千

葉市との連携、調整も必要だと思うんですけども、日常的にもう1カ所つくって、人、駅員を張りつけてというのはなかなかJRさんも大変かもしれないので、大きなイベントのあるときだけあけるような臨時の出入り口というか、何かそういうものもぜひつくっていただけたらというふうなことも思っております。今度、花火がありますけれども、花火のときもかなり駅、大変な混雑をするんじゃないかと思うんですけども、そういうものも参考にしつつ、大量のお客さんが来たときの駅での円滑な入退出というのをどういうふうにさばくかというのが必要なことじゃないかなというふうに思っております。

あともう一つは、やはり全国、あるいは海外からいろいろな方がお見えになるので、さまざまな問い合わせがあるんだと思います。いろいろな専門部会でのお話の中でも考えておられると思いますけれども、じゃ、問い合わせに対してどう対応するのか。基本的には人海戦術しかないのかなというふうには思います。いろいろな分野において役割分担も必要だと思いますが、こういう格好をした人に聞けば、このことがわかるとか、何かそういう問い合わせ対応が円滑にできるような、そういう仕組みも必要なんではないかなと思っております。

以上でございます。

○石井議長 ありがとうございます。

オリンピック以降の話も含めてだと思えますけれども、皆さんもそう思っているんですか。私なんかもそう思うんですけども、この千葉の中心部と幕張の接続がどうもうまくないんですよね。多分それをやろうとすると大変なお金がかかるので、新国立競技場みたいになってもいけないので、今回のオリンピックは何とか、藤野社長のところで今まで蓄えている金で何とかできそうですよね。横へ首を振っている。そうすると、千葉県がかなり出さないといけないので、企画部長、いらっしゃいますよね。よろしくひとつお願いします。せっかくやるんですから、外国の方にやっぱり満足して帰っていただくということが一番大事だと思いますので、それはよろしくひとつお願いします。

同じ地元マスコミということで、上田社長はこの会議に初めてお出になったので、何かあったら一言お願いします。

○上田委員 そろそろ来るかなと思っていたところでしたが、順番がこう回って反対にこう帰って行ったから来ないかなと思ったんですが、恐縮でございます。御指名ありがとうございます。

私も正直言って、昭和39年、あのころはもう小学6年生ですかね。あのころ、憧れを持ってオリンピックを見させていただきました。これが次の世代の人にじかに見てもらえるというの

はいい機会だなというふうに思っており、東京オリンピック開催自体、大変うれしく思っているところでございます。

そこで、千葉テレビとして何ができるか。テレビ会社として何ができるかということですが、今盛り上げる番組としては、御存じない方もいらっしゃるかもしれませんが、月1回の30分番組で「スポーツイチバン☆」ということで、選手を30分ほど紹介させていただいています。これは県の教育庁のほうとも相談しながら有力選手、この中で、先ほどありました溝口さん、フェンシングの選手で女性の方ですけれども、彼女を紹介させていただきました。今後、月1回ずつずっと続けていこうかと、これは一つの盛り上げることだろうというふうに思っております。

また、今後、何ができるのか。私の頭の中にはいっぱいあるんですが、ただ、私が考えを出してずばずば言っても仕方ないなというようなことで、以前から社内で言っていたんですが、やっと今日タイミングよくできましたのが、若い人達にプロジェクトとまでは言わないんだけど、プロポーザルなチームをつかって少しアイデアを出してもらおうかと、うち自身はソフト産業ですので、そのソフト産業として何ができるのかということを含め検討していきたいと思っています。また、今までお話をずっとお聞きしていると、その中には連携が組めるかなというのが多々あるんじゃないかなろうかというふうに思っております。千葉の魅力発信等々ございますので、そのあたりを鋭意取り組んでいきたいと思っております。そうすると、若い人達からどのぐらいいいアイデアが出てくるか、大いに活用しながら、そしてまたそれが社の財産となり、また千葉の財産になっていけばというふうに思っております。

ちょっと希望といいますか、心配な点は、千葉の会場施設の関係で、いろいろ改造が必要だろうと思っております。特に大会会場の設備改造が必要だろう、改修が必要だと思いますが、絶対に新国立競技場の二の舞にはならないように、これだけは千葉で仕事をしている人間としてぜひお願いしておきたいというふうに思っているところでございます。

私のほうからは以上でございます。

○石井議長 ありがとうございます。新国立競技場については、千葉でそういう意見があったということを何らかの形で国に伝えておいてください。

それでは、もう1方、マスコミからお願いしましょうか。NHKの吉開さん、全国回ってきてどうですか。今回初めて御出席ですが。

○吉開委員 お疲れさまです。初めてですが発言をさせていただきます。

まずNHKですけれども、今、オリンピックの競技の中継をきちんとやるということで若い

人を鍛えています。

今回、千葉の今日の推進会議に関して私の意見としては、皆様もおっしゃっていることですが、私は、1992年になりますか、スペインのバルセロナでオリンピックがあったときに、若いころですが現地に行って取材をした経験があります。そのとき何が一番苦労したかというのと、やっぱり言葉が通じなかったということなんですね。当時、私は海外の支局におりまして、英語はしゃべれたんですけども、バルセロナに行って英語をしゃべったら全く通じなくて、タクシーも乗れなかったというような経験がございまして、今日委員の皆様からも御発言がありました。いかに海外の方を言葉でもおもてなしするかということが一番大事であろうと思っています。

先ほどマザー牧場の方から基準を作ったらどうかという話がありましたが、私は全くそれに賛成いたします。千葉は非常に各地魅力のあふれたところで、各地でどう海外の方を受け入れようかという努力をされていると思うんですが、オリンピッククラスのイベントになりますと、やっぱり一つの大きな目標、戦略があって、それに基づいて各自治体が動いていくといったことが必要なんじゃないかと思います。具体的に言うと、各地域で全ての旅館、全てのホテル、全てのタクシーの会社などが海外の方を言葉でもてなすのは多分無理だと思うんですね。なので、例えば先ほど御発言があったように、例えば各地域の拠点をつくって、そこに行けば言葉も通じて、どこに行けばわかるというようなものをつくって、今はアプリ、スマホがありますので、例えば海外の方がスマホを見れば、どこに行けば何かあるかというのは、例えば中国語でも韓国語でもわかるといったように、地域の拠点をここにする。そこに行った後はスマホで御紹介をするといったような戦略を立てて、それを多分同じようなやり方をほかのところでもやるといったような、大きな千葉としての戦略をつくるというのが非常に大事だと思います。こうした戦略を、基準をつくってやっていかれるといったことが大事だと思いますし、それから、先ほど議長がおっしゃったように、例えば1回戦で負けたとしても、じゃ、千葉のこういうところに行ってみようじゃないかといったようなことにもつながるんじゃないかと思います。

そういう戦略をつくっておけば、それはオリンピックが終わった後も、今、千葉が目指しております、海外の方をたくさん受け入れるといったことにもつながっていくんじゃないかと思うので、このことは千葉の専門の部会の方がお考えになることだろうと思いますけれども、極めて非常にいいチャンスだと思いますので、ぜひ頑張ってくださいたいし、そういう姿を我々も取材で、スポーツの中継できちんと応援していきたいなと思っております。

以上でございます。

○石井議長 ありがとうございます。言葉の問題ですね。

私も最近身につまされたんですが、実は先週、ロシアに行ってきたんですね。ロシアへ行ったというとモスクワだとみんな思うんでしょうけれども、一番近いところ、ウラジオストックへ行ってきたんですね。札幌へ行くのと同じぐらいですね。1時間半ぐらいで行きました。そうしたら、言葉が全くわからないですね。表示がロシア文字って何か別にあるんですね。これも英語みたいだけれどもそうじゃない、よくわからない。もちろん日本語は出ていない。町の人に英語で話してもわからない。大変苦労しました。ですから、やっぱり世界から人が集まるというのは、そのことがまず一番最初に大事なことになるんだろうと思います。

そこで、今日の会議の副議長をお願いしている新倉先生は、実は千葉大の留学生の面倒を見ている先生なんですね。特にアジア関係の生徒が千葉大は多いんです。そこで、今度オリンピックの一部ですけれども千葉でやるとか、それから、オリンピックに対する留学生の反応みたいなものが何かあれば発表を願いたいと思いますけれども。

○新倉副議長 今の議長のお話ですが、千葉大学は今留学生が1,000人ぐらいいます。大陸中国から600人ぐらい、世界55カ国から留学生が来ています。

アジアであるとか新興国であるとかにかかわらず、やっぱり彼らに共通しているのは、先ほどお話があった、スマホですとかフェイスブックですとか、SNSの情報なんかでいろいろな情報を非常に早くつかむんですね。一つのエピソードを紹介します。千葉県のマスコットのチーバくんが千葉県全市町村を回って、千葉の物産や名所、観光施設とかいろいろなものを、歌を歌いながら楽しく紹介していくという動画があるんですね。その動画はとてもおもしろくて、やっぱり外国の人たちの目を引きましますし、千葉の中心部だけではなくて、千葉のよさが出ているいろいろな地域を紹介しているんです。このあいだ、交換留学生がその動画を見つけてきました。この動画、実は見つけにくいんですが、彼らたちはネットによる情報検索にたけているので結構見つけてくるんです。これは一つの例なんですけれども、そういう千葉の紹介が恐らくいろいろなところで行われているのかもしれませんが、なかなか目に触れないし、海外の人たちにうまくそれが伝わっていないというのが多分千葉の現状だと思います。

また、留学生も、在学中にいろいろなところを回ります。先ほどお話がありましたように、東京の有名なところとかというよりも、やっぱり千葉の、日本人でも楽しめる、あるいは日本人が余り気にとめていなかったようなところにすごく興味を示し訪れます。卒業して帰国した後、また皆さん気軽にそれこそLCCで来たりするんですね。タイあたりだと5,000円ぐらいで来られるという話です。が、今度は旅行者として成田空港からそういうところに行こうとす

ると、今度は足の問題が出てくる。せっかくいいところがあっても、そこにうまくつながっていかない。彼らたちは千葉を知り尽くしているので、そこへ行く手段がわかっているのですが、初めて来日する観光客はそこでもうつまずいてしまう。そうすると、もう成田から直行して東京に行ってしまうという状況があるんですね。

事務局のほうからも環境の整備というご提案がありましたが、今回の幕張メッセの3競技開催は、千葉全体の環境整備を考えていく上で一つのモデルとして捉えられるいい機会だと思います。できるところからやっていると、結構いろいろなことが進んでいくのかなというような気がしております。

○石井議長 ありがとうございます。

それでは、今回初めて御出席だと思いますが、内藤教育長、ちょっと一言。感想でも結構ですからお願いいたします。

○内藤委員 教育委員会のほうでは、当然教育を担当させていただいているほかにスポーツと文化を担当させていただいております。今日、いろいろな方からお話を伺いましたし、それから、何よりも幕張メッセで3競技開催するというので、私ども、担当しているこの教育・文化・スポーツの中でもいろいろ取り組まなければならないことが非常に多くなっているかと思っております。田村先生からは、オリンピック・パラリンピック教育は非常に重要だということで、今までもそういう意味では、この計画の中でもそういった感動を体験するための取組ということで、そういった要素も入っていたんですけども、実際に3競技、自分の県でオリンピックが開催することになるということで、子供たちの受けとめもかなり変わってくると思いますので、ぜひこのオリンピック・パラリンピックの充実をいろいろ進めてまいりたいというふうに思っております。

それから、当然ながらジュニア育成も非常に重要で、実は先週の月曜日、7月13日には、千葉県のほうで進めております強化指定の指定証の授与式もしたところで、森田知事から指定証の授与を、今年の指定選手に授与をいたしました。実際にやはり開催地にもなりましたし、それに伴って、3競技に限らずいろいろなキャンプも千葉県の中で出てくると思っておりますので、それを一つ大きな機運にしてジュニア選手の育成も進めてまいりたいと思っております。

それで、先ほどから、この際、千葉の魅力をいろいろ発信していくということで、文化面でいうと、もともと文化プログラムをオリンピックに絡めてやはり行うべきだというお話がございました。教育委員会のほうで担当しておりますのは主に伝統文化のほうになるんですけども、ただ、いろいろ過去の例を見ますと、伝統文化的な文化プログラムもいろいろやっている

というふうにも聞いておりますので、そういった文化プログラム、それから千葉の魅力発信ということで、私どもの担当しております伝統文化・文化財の面でもいろいろ頑張ってもらいたいというふうに思っております。

ちょっと感想めいた話になりましたけれども、以上でございます。

○石井議長 ありがとうございます。よろしくどうぞお願いします。

追加で何かありますか。

○新倉副議長 すみません。議長から言語の話が出ていましたが、全世界英語が共通語になっている感覚があるということで、やはり英語ができなければという意識がとても強いんですね。けれども、やっぱり先ほどおっしゃったように、多言語、いろいろな言語で発信できるような人たちを育てていくということも大切なことなんだろうと思います。千葉市で調査したことがあるんですが、在住外国人のうち英語が理解できる人たちは3分の1なんですね。語学ボランティアの養成についても、後々のことを考え、例えば医療語学ボランティアですとか、今まで余り手をつけられていないようなところに目を向け、そういう領域で人を養成していくということも重要で、いち早く進める必要があるんじゃないかなと思っています。県と市と、それから協会とか、みんなそれぞれが別々のボランティア養成機関を持っていて、連携がとれていない状況で進められているというのをちょっと感じています。ですので、千葉市、県も含めて連携ができて、同じような活動に関しては情報を共有して一緒に一つでできないかなというのは、とても強く思います。何かそれぞれが別々に行動していくというのはちょっともったいない気がしております。今回の3競技誘致をきっかけに、それができればありがたいなど。そんな取り組みが恐らくほかの各市町村にも広がっていくでしょうし、それがレガシーとして残っていくということではないのかなというふうにはちょっと感じましたので、すみません。

○石井議長 ありがとうございます。

今のお話は非常に重要でして、実はスポーツとか言語のことではなくて、例えば我々が担当している経済界とか、そういうのも何か一緒になったらいいんじゃないかなんていう団体が結構多いんですね。ですから、これはまた違う角度から検討したいと思います。

それでは、大体意見が出てきまして、言い足りないという方もいらっしゃると思いますが、一応ここで締めに近い話で、最後に、これはオブザーバーとして今日のご参加いただきありがとうございます日本オリンピック委員会の中森部長から一言お願いいたします。

○中森部長 改めまして、日本オリンピック委員会の中森と申します。よろしく申し上げます。

まず間違いないことは、東京2020オリンピック・パラリンピックの最大のゲートウェイになるのは、47都道府県中、千葉県です。ですから、日本に着いて最初に、ここは日本だと、ここは千葉県だということをぜひ印象づけるようなすばらしいゲートウェイづくりに取り組んでいただければというのが、まず最初のお願いでございます。

私は2005年から9年間オリンピック招致をやって、いろいろな国際戦略、やはり他都市に勝たないとオリンピック招致は実現し得ませんでしたので、いかに国際競争力をつけて相手と差別化をしていくかということを中心にオリンピック招致戦略を行ってまいりましたが、千葉県としても、グローバルな観点で国際競争力をぜひつけていただくよう、オリンピック・パラリンピックの機会を利用していただければと思います。

この3月に千葉市の商工会議所のほうから呼ばれまして1時間ぐらい講演をさせていただいたときに、国際競争力についてのお話をさせていただきましたが、国際競争力をつけるためには、いろいろなことをやっていかないといけないと思います。まずは戦略づくり、そのためのチームワーク、あとコミュニケーション、そしてリーダーシップを発揮していかに実行していくか、これが全てうまくいかないと、厳しい国際競争には勝ち抜くことはできないと思います。

よく、日本の組織はサイロだというふうに言われます。サイロって、まさしく縦割り行政のことを言われたんですが、この縦割りをいかになくしてチームワークをつくっていくかというのが、オリンピック招致という国を挙げて勝ち取る招致活動のキーポイントとなりますよ、ということをよくアドバイスをいただきました。この東京オリンピック・パラリンピックを成功させるために、28競技中の3競技を担っていただく千葉県には、ぜひこの機会に国際競争力を考慮して、2020年が終わっても、それが生かされるような戦略づくりを行っていただければと思います。ぜひ森田知事の下で、いいチームワークづくりを行っていただければと思います。

オリンピックの1年前のプレ大会から、徐々に盛り上がってきます。そして文化プログラムもトーチリレーも事前合宿も、ホストシティ・タウン構想も、いろいろありますが、これらをいかにうまく相乗効果を生み出すよう組み合わせて考えていくかということが重要になります。私もオリンピック委員会に約30年勤務しておりますが、オリンピックに本当に火がつくのはトーチリレーが到着してからです。これ、長野オリンピックのときも、オリンピックの1カ月前で、本当にオリンピックをやるのか、という長野市内の状況だったんですが、トーチリレーが到着してから本当に火がつけました。ですから、よく私が申し上げますのは、トーチリレーをどこを通していくのかということを考えていただいて、それに伴う文化プログラム、そして事前合宿、そしてホストシティ・タウン構想、トーチリレーを通すルートを考えて、一貫したプ

プログラムを立案していただければ、うまくまとまるのではないかなということを各地方自治体の方に申し上げております。

特に私としては、元県民でしたので、千葉県でぜひ、このオリンピックに火がついた後、2020年以降もずっと灯し続けていただくことを祈念して、お願いをさせていただきます。オリンピックのレガシーということは言いますけれども、本当はI O C的に言うと、レガシー&インパクトなんですね。いかにオリンピックでインパクトをつけて、それをレガシーとして残していくか。このインパクトの中には悪いインパクトもあります。ですから、想定される悪い影響、インパクトを、いろいろな前例がありますので、そこをいかに克服していくかということを考えてレガシーをつくっていただくのとよいものを残していけるのではないかなと思います。

J O Cとしても、千葉県と今パートナーを組もうということで考えております。このオリンピックムーブメントで、ぜひ2020年以降も千葉県とともに、日本オリンピック委員会、そしてオリンピックムーブメントの火と一緒に灯し続けていただくということをお願いしまして発言とさせていただきます。どうもありがとうございました。

○石井議長 ありがとうございました。

それでは、皆さんの発言はこれで一応終わりにさせていただきますが、今いろいろな意見が出ましたが、事務局から何かありましたら。

○内田東京オリンピック・パラリンピック推進担当課長 本当にさまざまな視点より幅広い御意見をいただきまして、本日いただきました御意見は、10の専門部会にそれぞれ検討する場としてつくってございますので、こちらにおいて検討した上で、戦略0から9の各戦略の改訂に反映をさせていただきたいと思っております。そしてまた、改めましてその内容につきまして、この推進会議に諮らせていただきたいと思います。ありがとうございました。

○石井議長 ありがとうございました。

それでは、今後のスケジュール等について事務局から発表願います。

○内田東京オリンピック・パラリンピック推進担当課長 改めまして、スケジュールにつきまして御説明をさせていただきます。

資料の4をご覧くださいと思います。

資料の4、戦略0の策定と既存9つの戦略の改訂につきましては、本日いただきました御意見を専門部会におきまして検討いたしまして議論を重ねまして、改めまして、このオリンピックの戦略でございますが、現在県で策定を進めております地方創生総合戦略の中にも位置づけられてございます。この総合戦略の策定と時期を合わせながら、この戦略の見直し、策定と改

訂を行いたいと考えておりました、資料4にございますように、10月中を目途に新たな戦略の策定、決定をしたいと考えております。

事務局からの説明は以上でございます。

○石井議長 ありがとうございます。

それでは、スケジュールどおり進みました。最後に議長から一言ちょっと申し上げておきますけれども、今、皆さんの意見は、お金のかかることが実はたくさんあったんですよね。特に僕は冗談っぽく言いましたけれども、メッセの藤野社長のところなんか大変なんですね。今蓄えている金じゃとてもできないんですね。ですから、何か静かに今日総合企画部長は後ろのほうに座っていますけれども、いろいろ意見が出たように、本当に千葉県にとって大事なオリンピックです。その後も大事ですから、このお金についてはぜひ県のほうからよろしく御配慮をお願いしたいということを議長コメントとしてお願いして、本日の会議は終わりにいたします。ありがとうございます。（拍手）

○司会 どうもありがとうございました。

本日の議事内容につきましては、事務局のほうで議事録を作成いたしまして千葉県のホームページ上で公表いたします。公表する内容につきましては、後日改めて委員の皆様を確認をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

なお、本日は非常に限られた時間でございましたので、さらに今後お気づきの点などございましたら事務局まで御連絡いただければ幸いに存じます。

それでは、これもちまして会議を終了いたします。

本日はどうもありがとうございました。